

ドキュメンタリー映画から世界にとびだそう!

ドキュメンタリー・ドリーム・ショー
山形in東京2008

Documentary Dream Show—Yamagata in Tokyo 2008
スペシャル企画



11月11日(土) 11月14日(金)
「レイトショーのみ」
11月18日(土) 11月14日(金)
ポレポレ東中野

中国★ドキュメンタリー
20年

主催：シネマトリックス
共催：山形国際ドキュメンタリー映画祭、アテネ・フランス文化センター、ポレポレ東中野
特別協力：成蹊大学アジア太平洋研究センター
フィルム提供・協力：NHK、太田プロダクション、シグロ、沙青、上海テレビ局、周浩、蘇青、米娜、孫悦波、高濱剛、タカレオ出版、中国インディペンデント映画祭実行委員会、東映、日立、黄牛田電影、高橋、プラネット映画資料図書館、毎日映画館、日本教職員組合、関宮剛夫、森口龍、楊天乙、縁影会(U-theque)、李紅、龍影、琉球放送、林鑫、王芳
助成：文化庁国内映画祭支援 XJFF

上映スケジュール	
上映作品・イベントは変更・中止される場合がございます。予めご了承ください ・各回入替制 ・ロートークの表記がある回は関係者によるトークを予定しております ★印付きは仲里効さんによる解説付き上映予定。	
11.1(土)	11:00 四海我家+ロートーク 14:00 レクチャー「中国ドキュメンタリーの20年」 16:00 私の紅衛兵時代+ロートーク 19:10 激突死+それぞれの15年+ロートーク 21:20 反国家宣言★
オールナイト上映 オキナワンドリーム ナイト	
23:00	オキナワ ドリーム ショー+ロートーク
02:00	リトアニアへの旅の追憶
03:50	オキナワ チルダイ
11.2(日)	11:00 老人 13:00 広場 15:10 水没の前に 18:10 それは島+ロートーク 20:40 やさしいにっぽん人★
11.3(月)	11:00 夏の妹★ 13:00 沖縄-祖国への道+沖縄の声+石のうた★ 15:10 沖縄列島★ 17:20 モトシカカランヌー+ロートーク 20:00 神々の深き欲望
11.4(火)	11:00 激突死+それぞれの15年 12:40 東シナ海★ 15:00 長江の夢 17:00 陳輝+蔣氏の家 18:50 三里元+風経 20:55 夢遊+ロートーク(はじめて、黄牛田で)
11.5(水)	11:00 博徒外人部隊★ 13:10 鳳鳴—中国の記憶 16:50 姉貴 20:00 火把刺団+ロートーク
11.6(木)	11:00 沖縄-祖国への道+沖縄の声+石のうた 13:10 高三 15:30 鳳凰橋を離れて 18:00 2H 20:30 南京路+ロートーク
11.7(金)	11:00 神々の深き欲望★ 14:30 白塔 16:30 不幸せなのは—方だけではない—一緒の時 18:40 排骨+ロートーク 21:00 NOISE+☆黄牛田 トーク

レイトショー 11月8日(土)～11月14日(金)	
11.8(土)	21:00 夏の妹
11.9(日)	21:00 沖縄列島
11.10(月)	21:00 やさしいにっぽん人
11.11(火)	21:00 モトシカカランヌー
11.12(水)	21:00 東シナ海
11.13(木)	21:00 博徒外人部隊
11.14(金)	21:00 オキナワ チルダイ

トークやイベントなど盛りだくさん。
各プログラムゲスト紹介をご参照ください。
★印は仲里効さんによる解説付き上映を予定しております。

ドキュメンタリー・ドリーム・ショー—山形in東京2008 関連イベント	
10月31日(金) 13:30～ 中国、沖縄 ドキュメンタリー／アートの可能性 会場：成蹊大学 8号館 602号室 ゲスト：呉文光 (ウー・ウェンガン)、仲里効、ほか 呉文光さん、仲里効さんを迎えて、講演とラウンド・テーブル (プロフィールは各プログラムのゲスト項目を参照ください) 主催・お問い合わせ：成蹊大学アジア太平洋研究センター 〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺南3-3-1 http://www.seikei.ac.jp/university/caps/ Tel: 0422-37-3549 Fax: 0422-37-3866 E-mail: caps@jim.seikei.ac.jp	11月8日(土) 14:00～ 目撃! 分析! 中国ドキュメンタリー! 会場：横浜ZAIM(ザイム) 2Fスペース ゲスト：黄牛田(ホアンニウティエン) 電影 第1部：レクチャー 「中国独立ドキュメンタリーのバックグラウンドを知る」 第2部：ディスカッション 「今、ここへカメラを向ける～中国におけるインディペンデント映画を話そう」 主催・お問い合わせ：久保田・西岡 Tel: 090-7391-1366 E-mail: amelle0123@hotmail.co.jp

上映会場

ポレポレ東中野
(JR・地下鉄大江戸線東中野駅より徒歩1分)
中野区東中野4-4-1 ポレポレビル地下
Tel: 03-3371-0088
www.mmjp.or.jp/pole2/

チケット

前売1回券 1,000円 / 前売3回券 2,700円
当日1回券 1,300円 / 当日3回券 3,600円
中・高・シニア 1,000円 小700円
○前売券は会場窓口とチケットぴあ(Pコード: 479-813)にてお買い求めください
○3回券は複数人数で使用可能

フリーパス 15,000円 (数限りあり)
○フリーパス購入希望の方は、ご利用の方の写真(3cm×2.5cm)をご持参ください
○フリーパスは記名者ご本人のみのご使用となります

オールナイト「オキナワ ドリーム ナイト」料金
11月1日(土) ポレポレ東中野で行われるオールナイト上映は特別料金になります
前売券 2,200円 (ポレポレ東中野、チケットぴあで販売 Pコード: 554-446)
当日券 2,500円
(オールナイトリビーター割引)
ドキュメンタリードリームショー 2008のフリーパス、半券をご提示いただければオールナイト上映のみ前売料金2,200円でご覧いただけます

当日割引チケット情報
●ポレポレ東中野回数券 (5回券6,000円 / 10回券10,000円)
入場に関して
●開映15分前を予定。フリーパスも含め、チケットはすべて整理番号の受付が必要となります。全回整理番号順のご入場となります。朝10時40分より、当日整理番号の受付をいたします。

お問い合わせ：
シネマトリックス
Tel: 03-5362-0671 (平日 月～金/10:00～18:00)
www.cinematrix.jp/dds2008

山形国際ドキュメンタリー映画祭 (YIDFF)
ドキュメンタリー映画を通じて「世界でいま、何が起こっているのかを体感する」映画祭。1989年にアジア初の国際ドキュメンタリー映画祭として開催された。以後、隔年で行われ、去年10回目を迎えた。
次回11回目は2009年10月8日(木)～15日(木)に開催。 www.yidff.jp

オキナワ・イメージの縁 映画篇

YIDFF2003「沖縄特集 琉球電影列伝／境界のワンダーランド」は、山形のあとに東京、そして沖縄へも移動して「琉球電影列伝」を開催し、多くの反響を呼び集めた特集であった。長短編・未編集フィルム計76本を上映した「沖縄特集」は、沖縄を巡る映画を読み解くことを試みた。コーディネーターのひとりであった仲里効氏が、その後出版した「オキナワ・イメージの縁(エッジ)」(未来社、2007)では、オキナワを巡る映像を挙げながら綿密な分析と著者の同時代的経験を織みながら、沖縄の「日本復帰」に映されるイメージの政治性を紐解いていく。今回の「オキナワ・イメージの縁(エッジ) 映画篇」は、著作で取り上げられた主な作品を一挙上映する特別企画である。
いくつかの軸を問うた「沖縄特集」のひとつの派生が「オキナワ・イメージの縁(エッジ)」だとしたら、「映画篇」を通じて高い、議論の深まる沖縄戦後世代の経験の位相と1972年の「復帰」を巡る作品群と対峙することは、日本と沖縄の関係だけでなく、それを取り巻く状況から(世界)を見る目を携えることになるだろう。11月1日～7日は仲里氏による解説つき上映やゲストとのクロストーク、オールナイト上映などイベントも盛りだくさん!

激突死
1978/カラー・DVD・上映/25分 演出：森口龍

それぞれの15年
1987/カラー・Beta-cam上映/45分 制作：琉球放送
復帰の翌年に、国会議事堂にオートバイで激突して死んだ上原隆という青年の死の(なぜ?)に迫り、人と場所を訪ね歩く「激突死」。激動の世替わりとしての「復帰」を高校3年の時に迎えた当時と、その後の15年を追った「それぞれの15年」を劇場初公開。
11.1(土)19:10+トーク (森口龍×仲里効) 11.4(火)11:00

それは島
—集団自決の一つの考察—
1971/モノクロ/16mm/81分
監督：関宮剛夫
渡嘉敷島で起こった「集団自決」の証言を捉えようと島を訪ねるクルー。住人たちの拒絶と固い沈黙に出会うカメラ。元守備隊長赤松元大尉の渡島が阻止された波紋を感じ取りつつ、その意味するところを日常の映像の中から問う。
11.2(日)18:10+トーク (関宮剛夫×仲里効)

反国家宣言
—非日本列島地図完成のためのノート—
1972/モノクロ/16mm/65分 監督：山崎佑次、川島和雄
沖縄返還に反対する沖縄青年同盟の若者たちから、大阪大正区の沖縄人部落、沖縄、八重山の台湾人移住者、やがて北海道のアイヌに至るロードムービー。上映プリントはYIDFF'95上映用に監督自ら再編集した。
11.1(土)21:20★

夏の妹
1972/カラー・35mm/95分
監督：大島渚 出演：栗田ひろみ、石橋正次、リウイ
復帰直後の沖縄を舞台に3世代が絡み、戦争責任と戦後体験、日本の戦後と沖縄の占領、日本復帰と観光化を巡る3つの劇が重なり合う大島の異色作。印象的な「白い喪の風景」がある現実性を窺わせる。
11.3(月)9:00 11:00★ 11.8(土)21:00

神々の深き欲望
1968/カラー・35mm/174分
監督：今村昌平
出演：三國連太郎、河原崎長一郎
南海のクラゲ島での、ノロを中心とする信仰や旧習と近代化の波との葛藤。現代と基層、合理と迷走、共同体の掟と放縦、近親相姦とタブーなどが幾重にも交錯する。また冷酷に島民の姿を見据えている。
11.3(月)9:00 20:00 11.7(金)11:00★

沖縄列島
1969/モノクロ/35mm/90分
監督：高瀬剛
復帰直後の風景を凝視したロードムービー。〈通り/過ぎる〉時の風景が見せる刹那や日常にこたわりつつ、時計の時間から遠く離れて視線を解さず映像鎮魂曲。即興ライブによる音付けが、色あせない魅力を掻き立てる。
※三線奏者は、金城実さん
11.1(土)23:00+トーク (高瀬剛×仲里効) **オールナイト**

オキナワンドリーム ショー
1974/ダイアログなし/カラー・8mm/113分
監督：高瀬剛
復帰直後の風景を凝視したロードムービー。〈通り/過ぎる〉時の風景が見せる刹那や日常にこたわりつつ、時計の時間から遠く離れて視線を解さず映像鎮魂曲。即興ライブによる音付けが、色あせない魅力を掻き立てる。
※三線奏者は、金城実さん
11.1(土)23:00+トーク (高瀬剛×仲里効) **オールナイト**

沖縄エロス外伝・モトシカカランヌー
2008年修復版 (オリジナル1971)/モノクロ/DVcam上映/94分 制作：N.D.U.
監督：高瀬剛 出演：平良トミ、照屋林助、カッチャン
コサを中心に、娼婦・やぐや観光客などを描いたNDUの伝説的な作品。オリジナル全長版は行方不明で、今回の上映版は新たに発見されたテンネビデオに残存する音声を付加して、できる限りオリジナルに近づけたもの。
11.3(月)9:00 17:20+トーク (諏訪敦郎×仲里効) 11.11(火)21:00

オキナワ チルダイ (特別版)
1976～/沖縄語、日本語/カラー、モノクロ/DVcam/69分
監督：高瀬剛 出演：平良トミ、照屋林助、カッチャン
日本復帰後6年の沖縄の変貌を「時間」を手がかりに描いた。現実の時間と神秘的な時間が交錯する摩訶不思議な世界が、ここにはある。「沖縄はニッポンか? チルダイがなければニッポンだ」
11.1(土)27:50 **オールナイト** 11.14(金)21:00

ゲストプロフィール
仲里効 (なかざき いわお)
1947年、沖縄南大東村生まれ。1995年に雑誌「EDGE」創刊に加わり、編集長。活字と映像(写真、映画)から沖縄の境界性、エッジとしての沖縄を試みる。著書に「オキナワ・イメージの縁(エッジ)」(未来社、2007)、「オキナワ・イメージの縁(エッジ) (共著)など。映像関係では「嘉手刈林昌 唄と語り」(高瀬剛監督、共同企画)、YIDFF2003の「琉球電影列伝／境界のワンダーランド」共同コーディネーターなど。2007年に今回の企画のベースとなった「オキナワ・イメージの縁(エッジ)」を執筆、話題となる。その他の近著に「「沖縄問題」とはなに—対論(共著)、「沖縄、暴力論(共編)など。
解説付き上映 11.1(土)～11.7(金) スケジュールの★印部分は仲里効さんによる解説付き上映予定。
森口龍 (もりぐち りゅう)
1937年、東京生まれ。ジャーナリスト。沖縄を語る一人の会主宰。1959～74年、琉球新報社会部記者や日本テレビ沖縄特派員として米軍統治下の沖縄で暮らす。テレビ・フィルム・ビデオでデビュー。その後も一貫して沖縄を撮り続ける。「パラダイスビュー」(1985)は初の劇映画。1989年「ウタマギル」でベルリン国際映画祭カリガ賞など内外で多数受賞。その他、「夢幻琉球—つるへんり」(1998)、1996年のジョン・メカス来沖がきっかけとなり生まれた「拙い撮る琉球 J-M」(1996～)など。沖縄の芸人を追い続けて「嘉手刈林昌 唄と語り」(1994)、「大城美佐子 唄と語り」(2007)を発表。
トーク 11.1(土) オールナイト上映 23:00 「オキナワ ドリーム ショー」上映後
関宮剛夫 (まみや のりお)
1929年、東京生まれ。1951年日本映画社新人会に入社。その後、東京シネマ、日経映画社を経てフリー。PR映画を撮る一方で「記録映画製作協議会」「映像芸術の会」「杉並シネクラブ」「日本映像民俗学の会」など新しい映画運動に参加。主な作品に「沖縄」(1959)、「長生のスタンダー」(1962、教育映画祭最高賞)、「それは島」(1971)など。
トーク 11.2(日) 18:10 「それは島」上映後
諏訪敦郎 (すわのぶおろ)
1960年、広島生まれ。映画監督。2008年より東京造形大学学長。助監督やテレビドキュメンタリーの演出を経て、1996年に長編劇映画「2デュー」を監督。「[MOTHER]」(1999、カンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞受賞)、「H/Story」(2001、カンヌ国際映画祭正式招待)、「不完全なふたり」(2005)を発表。その他、韓国全州映画祭のオムニバス作品「After War」(2002、ロカルノ映画祭ビデオグランプリ受賞)、パリを舞台にしたオムニバス映画「バリュエター」(2006)に参加。
トーク 11月3(日) 17:20 「沖縄エロス外伝・モトシカカランヌー」上映後
スペシャルイベント オールナイトイベント「オキナワンドリーム ナイト」
●11月1日(土) 23:00～
金城実さんの三線による音付けと高瀬剛監督自らが映写するライブ上映「オキナワ ドリーム ショー」、高瀬監督も多大な影響を受けた「リトアニアへの旅の追憶」、そして「オキナワ チルダイ(特別版)」を上映。まさに現実と夢を行交うドリームナイトをとくとく体験あれ! 高瀬剛監督は、参加者によるトークショーも予定。
「オキナワンドリーム ショー」は生音をつけての上映でナリ金城実(きんじょうみ)の三線奏者
1935年、沖縄本部町谷茶生まれ。15歳から本部谷茶エサの地方を務め、登川誠仁、普久原朝喜の各師に教を受けた。現在は民謡界の第一線で活躍する。沖縄を代表する唄者の一人。琉球国民謡協会会長。代表作に「時代—金城実戦中戦後をうたう」など。1980年に発売された「連続カチャーシー」は、沖縄の御祝いの席に欠かせない。カチャーシーの名盤中の名盤。よなは徹と組んでの「連続カチャーシー 2005」と、そのライブ展開で今や若い世代にもすっかり馴染みになった沖縄民謡界の重鎮。

沖縄・祖国への道
1967/カラー・16mm上映/22分
構成：黒沢剛

沖縄の声
1969/カラー・16mm上映/30分
企画：日本広報センター、南方同胞援護会

石のうた
1965/モノクロ/16mm/41分
構成：沼沢伊勢三

東シナ海
1968/カラー・35mm/105分
監督：龍見彦彦
出演：田村正和、内田良平
渡嘉敷島の集団自決を奇蹟的に生き延びたが、その記憶を忘れたまま東京で暮す「シナカ」。一貫して曖昧な態度で漂流するシナカが存在を卓抜な構成で描き出し、〈日本人の行動と意識を追及した異色作。〉
11.4(火)12:40★ 11.12(金)21:00

博徒外人部隊
1971/カラー・35mm/93分
監督：深作欣二 出演：鶴田浩二、安藤昇、若山富三郎
出所したヤクザが、かつての舎弟たちと新天地を求めて沖縄に渡り、既存の組織との縄張りを巡る抗争に。アウトロー—集団が「かつて」を回復するための場として沖縄を眼差す先にある、日本と沖縄のコロニアルな関係。
11.5(水)11:00★ 11.13(木)21:00

南方地域(沖縄・小笠原)の諸問題解決促進を目指す南方同胞援護会が「抱きとろう、母国へ 沖縄・小笠原」の標語のもとに製作した広報映画2作品。
「沖縄-祖国への道」との比較が興味深い「石のうた」は、日本と沖縄を八重山に伝わる慈悲伝説の男女にたとえ、沖縄と本土の運動がどのように結びついていたかを知らされる。
11.3(月)9:00 13:00★ 11.6(土)11:00

やさしいにっぽん人
1971/モノクロ/35mm/118分
監督：東陽一
出演：河原崎長一郎、緑魔子
渡嘉敷島の集団自決を奇蹟的に生き延びたが、その記憶を忘れたまま東京で暮す「シナカ」。一貫して曖昧な態度で漂流するシナカが存在を卓抜な構成で描き出し、〈日本人とは何か〉を実験的に描く。
11.2(日)20:40★ 11.10(月)21:00

リトアニアへの旅の追憶
アメリカ/1972/英語、リトアニア語/カラー、モノクロ/35mm/87分
監督：ジョン・メカス
ナチスに追われアメリカに亡命したメカスが27年ぶりに訪れた故郷リトアニアでの母、友人たちとの再会を果たす旅を中心にした日記映画。実験映画の不朽の名作ともいわれ、多大な影響と刺激を与え続けている。
11.1(土)26:00 **オールナイト**

中国★記録電影の20年

中国ではこの20年、国家統制から自由に、個人の視点を打ち出すインディペンデント・ドキュメンタリーが増えている。特権だった映像制作が、いまや詩を書くように誰にも可能になった時代が到来し、映画に中国のさまざまな諸相が貌を現す。天安門事件からオリンピックまで、同時代を生きる個人映像作家たちの挑戦をこの機会にごらんください。

※作品データ付記がないものは 中国／中国語

北京1990sと呉文光

天安門事件で知られる1989年前夜の北京は自由と開放を求める空気に満ち溢れていた。全国から規格外の生き方を求める若者たちが北京へ向かい、当局による配属を拒否。彼らは居住許可もない、不安定で貧しい生活の中で、自由な個人の芸術活動を目指した。

雲南出身の呉文光は、テレビ局の機材を流用しながら写真、美術、演劇などを夢見る仲間たちを撮り始めた。社会の圧迫感から突破を熱望する彼らの本音を『流浪北京：最後の夢想家たち』に映し、1990年に完成させた。次に文化大革命の紅衛兵だった人々をインタビューした『私の紅衛兵時代』が海外各地で上映され、山形映画祭でも第1回小川紳介賞に輝いた。呉文光は来日をきっかけに『四海我家』（『流浪北京』の続編）の製作資金を得ることになった。当時北京でドキュメンタリーを作り始めた仲間に、張元（『広場』『小さな赤い花』）らがいた。お約束で塗り固められた既存のテレビ・ドキュメンタリーと統制社会をぶち破る、荒々しいエネルギーに満ちた中国ドキュメンタリーの黎明期だった。

ゲストプロフィール

呉文光（ウー・ウェンガン）
1956年雲南省生まれ。中国インディペンデントドキュメンタリーの先駆者。ドキュメンタリーを作り発表するだけでなく、海外で得た知識や情報を国内に広める出版物、ワークショップや上映活動を通し、15年来ドキュメンタリー運動を牽引。舞台芸術にも深く関わり海外公演も多い。近年は北京の仕事場「草場地ワークステーション」を拠点に、若者や農民ら“素人”による映像記録活動の支援に専念している。代表作に『流浪北京：最後の夢想家たち』（1990）、『私の紅衛兵時代』（1993）、『四海我家』（1995）、『江湖』（1999）、パフォーマンス・アートを記録した『出稼ぎ労働者と踊る』（2001）。

レクチャー 「中国ドキュメンタリーの20年」
11.1① 14:00～
映像を交えながら、呉文光監督がこの20年の中国ドキュメンタリー映画シーンを語ります。（1回分のチケットが必要です）
上映＆トーク 11.1① 11:00 『四海我家』
11.1① 16:00 『私の紅衛兵時代』



四海我家

四海我家 At Home in the World
1995/カラー /DVcam/120分（本編87分版）
監督：呉文光（ウー・ウェンガン）
かつて芸術家を夢見て北京に上京した友人らが、90年代に中国を離れて世界へ散っていく。前作『流浪北京』のダイジェストと佐藤真監督との貴重な対談模様を合わせたNHK番組の上映。 11.1① 11:00 トーク（呉文光）



私の紅衛兵時代

我的一九六六 1966, My Time in the Red Guards
1993/カラー /DVcam/134分 11.1① 16:00 トーク（呉文光）
監督：呉文光（ウー・ウェンガン）
文化大革命に青春時代を送り、今は社会の中堅となっている元紅衛兵たち（『青い嵐』監督の田社社ら）が、詳細に当時の経験の本音から語る。日本語字幕入りで本邦初上映。



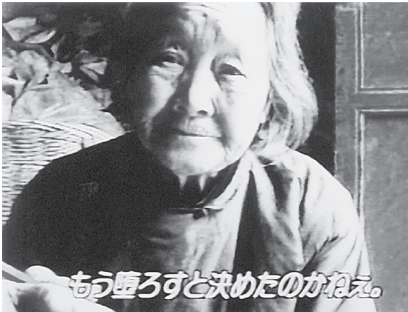
広場

広場 The Square
中国、日本/1994 /カラー /35mm/100分 11.2② 13:00
監督：張元（チャン・ユアン）、段錦川（ドゥアン・ジンチン）
多くの歴史的事件の舞台となった天安門広場の、1994年の日常をじっと見つめる。風揚げする人々、テレビ取材班、武装警察、おのぼりさん。ノーナレーション観察スタイルのひとつの手法となった。 11.2② 13:00

生活実感を伴う長期撮影

90年代後半に入り、加速化する経済成長に従い社会が劇的に変わり始めた。同時にドキュメンタリーを試みる人の輪は広がり、市井の人々を被写体に長期撮影する、生活実感に裏づけられた独特の作品群が生まれ、中でも女性監督たちの活躍が際立った。留学中の日本で、三里塚闘争の映画を運作した小川プロと出会い、馮艶は長江の農民を撮り始める。

北京の出稼ぎ少女たちを記録した李紅は、彼女たちの狭い部屋で寝起きを共にし、心を通わせ、長期撮影を続けた。テレビ・ディレクターの常識を踏み出る手法だった。人民解放軍の歌舞団所属の女優だった楊天乙は、賈樟柯監督の『ブラントホーム』など独立映画の人脈に触発され、自らも四季を通して地元の人々たちの撮影を続けた。王芬にとって、モデルをしたり実験演劇の舞台に立つことと、ビデオカメラを使うことはそう違わない感覚だったかもしれない。家族をまるで他者のように見つめる独特な距離感は、客観と共感の絶妙なバランスに立つ。王芬はいま、劇映画の監督として活躍している。



長江の夢

長江夢 Dreams of Changjiang
1997/カラー /Beta-cam/85分
監督：馮艶（フォン・イェン）
三峡ダム建設のため、移住を余儀なくされる川沿いの村人。各人の事情を丹念に取材し、その心理に近づく。YIDFF 2007に「兼愛」で小川紳介賞を受賞する馮監督の原点。 11.4④ 15:00



不幸せなのは一方だけではない

不快楽の不止一个 More than One Is Unhappy
2000 /カラー /Beta-cam/45分 11.7⑦ 20:00
監督：王芬（ワン・フェン）
English subtitled



鳳凰橋を離れて

回到鳳凰橋 Out of Phoenix Bridge
1997/カラー /Beta-cam/110分 11.6⑥ 15:30
監督：李紅（リー・ホン）
実家から夫の家へ嫁ぐ、働きづめの未来が控える田舎娘にとって、北京で出稼ぎする数年間は苦しくても自由の夢が見られるひと時。彼女たちの揺れる心情を女性監督が身近距離から追う。 11.6⑥ 15:30



一緒にの時

在一起的時光 Wellspring
2002/カラー /DVcam/48分 11.7⑦ 16:30
監督：沙青（シャ・チン）
English subtitled

老人

老頭 Old Men
1999/カラー /Beta-cam/94分 11.7⑦ 16:30
監督：楊天乙（ヤン・ティエンイー）
北京郊外の集合住宅。毎日同じ街角に老人たちが集まる井戸端会議。照りつける夏の暑さに耐え、春の突風に吹かれてよろよろ歩き、町が雪に覆われた静寂の冬には姿を隠す。 11.7⑦ 16:30

中国にもついに家族ドキュメンタリーが登場した「不幸せなのは一方だけではない」。浮気が自慢の鉄道員の父と、結婚生活の苦勞ばかり語る母を22歳の作者が軽やかなステップで捉え直す。併映は「一緒にの時」。衰弱していく脳性麻痺の少年と家族の物語を寓話化し涙を誘う。

映画的な充足へ

2000年以降の中国ドキュメンタリーの急増は、まがいなくデジタル革命のおかげだろう。デジタル・ビデオ（DV）の撮影と廉価な海賊版ソフトに支えられた自宅PC編集は、映像業界と無関係だった多くの素人に映画表現の門戸を開いた。一方で、現実の報道的な記録に留まらない、より映画的な作品を完成させようとする野心ある作家たちが次々と作品を発表した。日本在住の李縷は、小型DVカメラの利点を撮影に生かしながら、35mmフィルムに仕上げ、当時先端の技術力を駆使した作品を製作。山形映画祭で2003年（『鉄西区』）と2007年（『鳳鳴——中国の記憶』）にグランプリを受賞した王兵は、個人がたったひとりでカメラを回す行為の中に、中国の歴史や社会制度を批評する潜在力があることを実践で示した。『水没の前に』を含むこれら映画的な中国ドキュメンタリーは、数多くの国際映画祭で喝采を浴び、その作家的な視点と時代との呼応を見せつけた。



2H

日本/1999/中国語、日本語/カラー、モノクロ/35mm/120分
監督：李縷（リ・イン）
English subtitled
『韓国 YASUKUNI』の李監督の初長編。若い女性芸術家とかつて国民党の將軍だった老人——東京在住の中国人ふたりを軸に疎外と孤独を描く。 11.6⑥ 18:00



水没の前に

淹沒 Before the Flood
2004/カラー /DVcam/143分 11.2② 15:10
監督：李一凡（リ・イーファン）、鄧雨（ Deng Yu）
English subtitled
三峡ダムの建設で水没予定の奉節の町は、立ち退きや取り壊しに伴う混乱で大騒動になっていた。キリスト教会の人間関係や安宿の主人と当局の睨みを厳密に記録したカメラの遍在は現地を熟知する監督たちならではの。 11.2② 15:10

鳳鳴——中国の記憶
和凤鸣 FENGMING A Chinese Memoir
2007/カラー /DVcam/183分 11.7⑦ 16:30
監督：王兵（ワン・ビン）
English subtitled
1950年末、機たびもの肅清運動で迫害を受けたある老女の壮絶な物語が、ほとんど編集をはさまない固定カメラの映像と音声を通して圧倒的な波動で押し寄せてくる。 11.5⑤ 13:10



描かれて存在が輝く

近年の中国ドキュメンタリーはスタイルやテーマ、撮影場所や撮り手が多様化し、様々な視点による「知られざる中国」がその魅力を見せている。ろう者や受験生の日常生活に踏み込んだ精緻な作品や、政府の取り壊し・移住政策に対して、それを受けいれる都会の老人や抵抗する三峡の農民女性の素顔を、至近距離から見つめた作品がそれぞれ胸に迫り、中国という巨大で多様な国の理解を深める。かつての政治プロパガンダ的手法の反動で、音楽やナレーションを使わない観察型の作品が相変わらず多いが、被写体や題材の珍しさだけに留まらない成熟を感じさせる。風のように体感させる感覚的な作風（『風経』）や現代アートや音楽との合作も可能性を広げている。



陳炉

陈炉 Chen Lu
2004/カラー、モノクロ/DVcam/28分
監督：林鑫（リン・シン）
English subtitled



蔣氏の家

房东蒋先生 Last House Standing
2004/カラー、モノクロ/DVcam/54分
監督：千超（ガウ・チャオ）、梁子（リャン・ツ）
English subtitled
画家による初監督作品『陳炉』は、陶器の街と人を瑞々しく描く。『蔣氏の家』は、初老の生粋上海「貴族」が、まもなく取り壊される屋敷で北京女性と同居することになる、異文化摩擦と友情の物語。 11.4④ 17:00



白塔

White Tower
2003/カラー /DVcam/83分
監督：蘇青（スー・チン）、米娜（ミー・ナー）
English subtitled
中国で初めてろう者の恋愛と感情世界を描いた作品。手話で交わされる活発な会話が躍動感あふれる。 11.7⑦ 14:30



高三

Senior Year
2005/カラー /DVcam/95分
監督：周浩（ジョウ・ハオ）
English subtitled
福建省の高校で受験勉強に励むあるクラスを1年かけて追う。ひとりっ子政策の重み、貧富の格差、ネット中毒など現代中国の問題点が垣間見られる。 11.6⑥ 13:10



三元里

San Yuan Li
2003/ダイアログなし/モノクロ/ミニDV/44分
制作：欧寧、曹斐、韓影会（U-theque）



風経

风经 Blossoming in the Wind
2004/チベット語、中国語/カラー /DVcam/60分
監督：孫悦凌（スン・ユエリン）
English subtitled
広州の旧市街地を撮りまくった映像を編集し、アンビエント音響をつけた秀逸なビデオアート作『三元里』。『風経』はチベット仏教の若い僧侶と弟子、そして監督が雪の聖山を巡る至福の旅。どちらも手持ちDVカメラの自由自在。 11.4④ 18:50

◎関連作品公開告知

2009年 春節ロードショー決定!



長江にいきる〜兼愛の物語
2007/カラー /DVcam/117分/原題：『兼愛』
監督：馮艶（フォン・イェン）
三峡ダムで水没する村の乗愛さんは移住を推し進めようとする小役人と渡り合い、この地に立つ。映画音響の菊池信之氏の手の入ったニューサウンド版が、渋谷・ユロスベースで劇場公開決定!
詳細は:
Tel. 03-5362-0671
(ドキュメンタリー・ドリーム・センター/シネマトリックス内)

黄牛田電影 参上!

インディペンデントであること、記録すること、表現することを問いかね、意欲的にドキュメンタリー作品を発表している作家たちが立ち上げた映画グループ「黄牛田電影」。広東省の村「黄牛田」で自然した映画観議の末、結成したという。なぜか謎めいた風説の男ばかりだが、今回は東京に大結集! メンバーは現代美術やデザインなどに素地を持つ者が多く、創作面のみならず作品の流通においても新たな概念を探求している。



夢遊

梦游 Dream Walking
2005/モノクロ/DVcam/86分
監督：黄文海（ホアン・ウェンハイ） English subtitled
自称有名芸術家4人のある夏の生活。逆立ち生態美術家、教師の画家、詩人、彼らを撮影する男。人生とアートを彷徨。 11.4④ 20:55 トーク「はじめまして、黄牛田です」



姉貴

姐姐 Sister
中国、アメリカ/2007/中国語、英語/カラー /DVcam/151分
監督：胡新宇（フー・シンユイ） English subtitled
暴力的な夫と別れアメリカで再婚した監督の姉。その娘も渡米同居が始まると、家族に亀裂が。同じ屋根の下、監督がコミカルに介入する。 11.5⑤ 16:50

前田佳孝

「プログラム・コーディネーター協力」
1984年生まれ。高校卒業後、映画美術学校に入学。王兵の『鉄西区』に影響され中国へ留学。2年間の語学勉強の後、北京電影学院に入学、監督科に在学中。中国のドキュメンタリー作家を追ったドキュメンタリーを制作している。
11.5⑤ 20:00 『火把劇団』



火把劇団

火把劇団 Torch Troupes
2006/カラー /DVcam/110分
監督：徐辛（シュウ・シン）
四川の茶館で古くから親しまれた歌舞劇「川劇」が観客の老齢化と共に危機にある。現代風に衣替える劇団、がんに破産へ向かう劇団……。 11.5⑤ 20:00 トーク（徐辛）



南京路

Street Life
2007/カラー /DVcam/112分
監督：趙大勇（ジャオ・ダーヨウ）
中国全土からこの上海の繁華街に集まった路上生活者。ゴミ拾い、かつばらい、流し、物乞い……。あらゆる手段をもって生き残ろうとする生命力の謳歌。 11.6⑥ 20:30 トーク（趙大勇）

排骨

Paigu
2006/カラー /DVcam/106分 監督：劉高明（リウ・ガオミン）
海賊版DVDを売る深圳の小さな店。アート系映画の情報収集に余念ない排骨だが、田舎出身で学歴のない自分でも「映画のような」幸せをつかめるのか……。 11.7⑦ 18:40 トーク（劉高明）



NOISE 熱鬧

2007/ダイアログなし/カラー /DVcam/62分
監督：王我（ワン・ウォ）
爆竹の喧騒と大騒ぎ。事件にむらがる野次馬。天安門広場の発散。中国人の生活にあふれる音と光の事件を批評する。上映後は黄牛田全員集合で大トーク。 11.7⑦ 21:00 トーク（王我ほか）

ゲストプロフィール

新進気鋭! 黄牛田電影の面々

トーク「はじめまして、黄牛田です」
11月4日(火) 20:55～「夢遊」上映終了後
謎の映像集団・黄牛田電影の自己紹介です。総勢7名が来日します。
トーク「黄牛田 大トーク」
11月7日(金) 21:00～「NOISE」上映終了後
中国社会に対する異議申し立て? 連帯と自由のドキュメンタリー制作について来日ゲストによる徹底討論。

梁小武 (リアン・シャオウー)

朱日坤 (ジュ・リークン)
インディペンデント映画の製作と上映や流通などを幅広く手がけるプロデューサー・映画評論家。今年、北京郊外のアーティスト村・宋庄で自主運営の映画館をオープン。故郷の村名をグループ名にとった、黄牛田電影の代表。

王我 (ワン・ウォ)

1967年河北省生まれ。幼年時代を電力発電所で過ごす。ほどなく町に移り住み美術の勉強をするようになる。1984年から1991年は発電所で働き、1991年から1995年は中央工芸美術院で学ぶ。卒業後、グラフィックデザイナーとして広告業界の仕事をし、1998年より再び大学に戻り修士号を取得。その後デザイン会社に務めながら劇場映画『Matou Street』を制作し、韓国の映画祭に招待される。ドキュメンタリー『外面』(2005)、『NOISE』で自己表現の新たな方法を発見する。
11.7⑦ 21:00 「NOISE」